

令和5年度 学校関係者評価

北海道厚岸翔洋高等学校

1 学校教育目標

北海道厚岸翔洋高等学校の生徒として自覚と誇りを持ち、未来に翔く人の育成を目指し、

- 学びの目的を理解し、学びの喜びを実感できる人を育む
- 課題を発見し、自ら進んで解決に取り組む人を育む
- 自他の違いを尊重し、多様な他者と協働することができる人を育む
- 心身ともに健康で、持続可能な地域社会の創り手となる人を育む

評価者
学校評議員
5名(1名不在)

2 評価の結果

評価項目		自己評価 (そう思う、どちらかといえばそう思うの割合)	今後の方策	自己評価の適切さ	取組の適切さ	今後の方策の適切さ
育成を目指す資質・能力	本校が教育活動を通じて生徒に育成を目指す資質・能力は、生徒の実態や保護者、地域の人々の期待を踏まえたものになっている。	95%	○現行の教育課程(R4～)について、R6年度末の検証を踏まえ、社会に開かれた教育課程の実現に努める	A4	A3 B1	A4
教育課程	普通科・海洋資源科それぞれの特性や生徒の興味・関心、進路の実現を踏まえ、地域産業等のニーズに応えることができる特色ある教育課程が編成されている。	100%				
学習指導	生徒に学びの目的を理解させ、生徒の主體的な取り組みを促すとともに、「わかる」「できる」などの学びの成果(喜び)を実感させる指導が行われている。	91%	○タブレット端末などICTの活用を充実し、各教科の学びの深化を図る。	A4	A4	A4
	生徒の主體的・対話的で深い学びを実現するために、個別学習やグループ学習、体験的な学習等を積極的に活用するなど、指導方法の工夫改善が行われている。	100%				
生徒指導	服装、頭髮、挨拶、言葉づかい、時間の厳守など基礎的・基本的な生活態度を身に付けさせるとともに、自律心の涵養に努め、節度ある学校生活の定着を高める指導が行われている。	100%	○身だしなみ検討会議を実施し、基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、いじめ等の未然防止に資する教育相談体制の充実を図る。	A2 B2	A1 B3	A3 B1
	相手の立場に立って考える習慣や多様性を尊重し違いを認め合う態度の育成が行われている。	86%				
	いじめの未然防止や早期発見・解決に努め、生徒一人ひとりの悩みや問題に対して適切な対応・取組が行われている。	100%				
進路指導	体験乗船、インターンシップ、企業実習、各教科などすべての教育活動をとおして望ましい勤労観・職業観の育成を図り、社会とのつながりを意識した指導が行われている。	100%	○企業実習や進路ガイダンスのほか、地域と連携した企業説明会等を実施して進路指導の充実を図る。	A4	A4	A4
	保護者・事業所等との連携を密にし、生徒や保護者、地域の期待に応える進路指導の体制づくりや就職・進学指導が行われている。	100%				
健康安全	いのちの大切さや基本的人権の尊重に基づく、性教育、薬物乱用防止教育、交通安全教育の充実に努め、健康で安全な生活ができる指導が行われている。	100%	○PTA活動に関する広報活動を充実させるとともに、気軽に参加しやすいPTA活動を目指して情報発信に努める。	A3 B1	A1 B3	A1 B3
PTA活動	保護者や教職員が参加しやすいPTA活動が行われている。	73%				
情報発信	学校ホームページや学校だより、PTAだよりなどの手段により、教育活動の様子が十分に情報発信されている。	95%	○教育相談を充実し、生徒一人一人に対応した支援の充実を図る。	A4	A4	A3 B1
生徒	生徒は、厚岸翔洋高等学校の学校生活に満足していると思う。	91%				
保護者	保護者は、厚岸翔洋高等学校に進学させて満足していると思う。	91%				